

# 赤潮発生状況について

住友 寿明・酒井 基介

赤潮情報伝達事業の一環として、県下における赤潮発生状況を取りまとめたので報告する。なお、赤潮発生時などの情報収集、現場における赤潮の推移状況、被害発生調査等は前年と同様の方法で実施した。

かった。また、10月中旬から11月上旬にかけて、播磨灘から紀伊水道に及ぶ広い範囲で*Mesodinium rubrum*による赤潮がみられた。

## 結果および考察

表1に平成19年の赤潮発生状況、図1に赤潮発生件数と被害件数の推移、図2に赤潮形成域の分布をそれぞれ示した。本年は11件の発生が認められ、前年より7件多かった。昨年と比較し、気温が高く降水量が少ないことが発生増加に繋がった可能性が考えられる。*Heterosigma akashiwo*による赤潮が、6月に橋湾と椿泊湾で、10月に阿南市の富岡港で発生したものの、漁業被害は報告されな

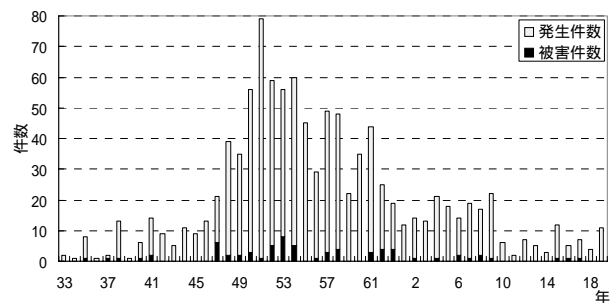


図1 赤潮の発生件数と被害件数の推移

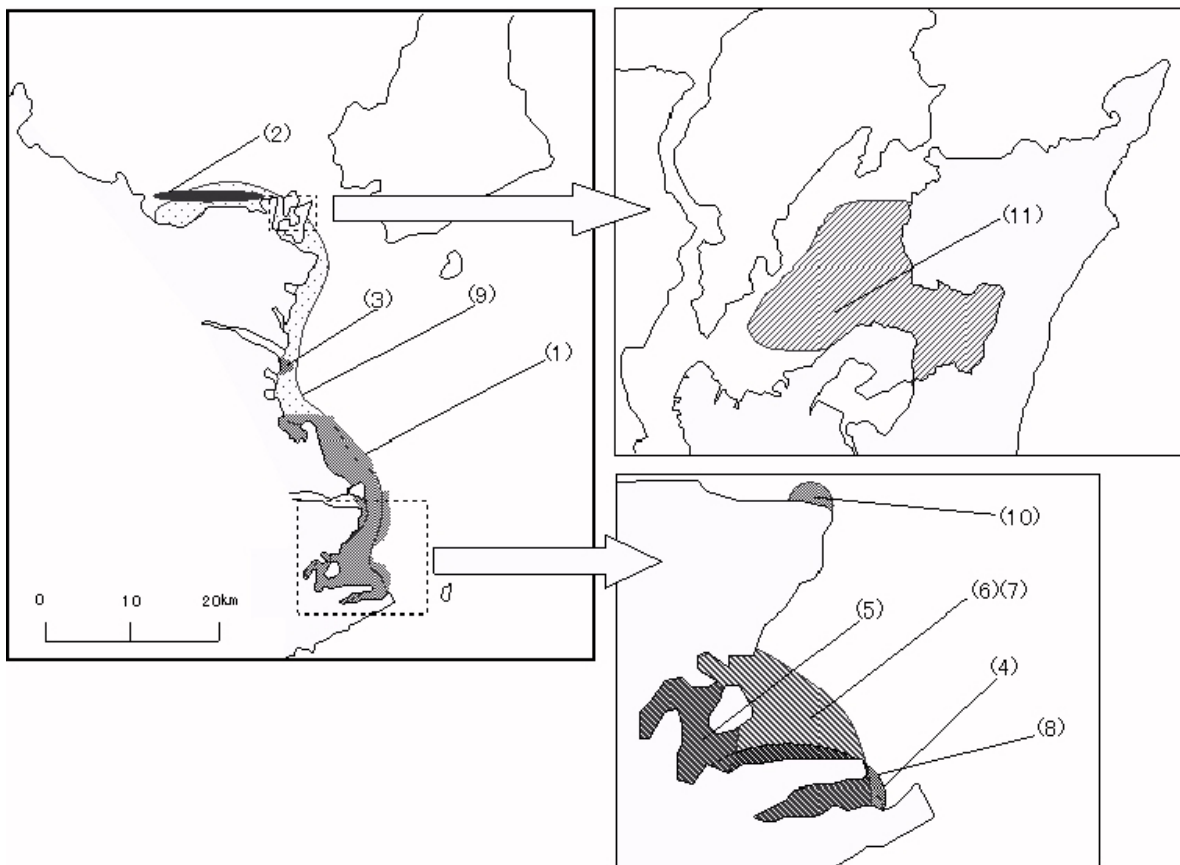


図2 赤潮形成域の分布

図中の番号は表1に示した赤潮の番号を示している。

表1 平成19年の赤潮発生状況

番号	発生期間	日数	発生海域	赤潮構成種	漁業被害	最高細胞数 (cells/ml)	備考
1	2/26 ~ 3/28	31	椿泊湾 ~ 小松島湾	<i>Eucampia zoodiacus</i>	無	711	
2	4/10 ~ 4/15	6	北灘沿岸	<i>Noctiluca scintillans</i>	無	不明	
3	5/30 ~ 6/5	6	沖洲及び新町川河口	<i>Skeletonemasp.</i> <i>Chaetocerossp.</i> <i>Nitzschia sp.</i>	無	8,000	
4	6/17 ~ 6/20	4	椿泊湾	<i>Heterosigma akashiwo</i>	無	9,800	
5	6/20 ~ 6/23	4	橘湾	<i>Heterosigma akashiwo</i>	無	9,900	
6	7/9 ~ 7/10	2	橘湾及び椿泊湾	<i>Skeletonemasp.</i> <i>Chaetocerossp.</i>	無	不明	
7	7/19	1	橘湾及び椿泊湾	<i>Chaetocerossp.</i> <i>Skeletonemasp.</i> <i>Nitzschia sp.</i> <i>Mesodiniumsp.</i> <i>Prorocentrum sp.</i>	無	7,850 6,110 1,400 1,050 120	
8	9/5	5	橘湾及び椿泊湾	小型珪藻主体	無	不明	
9	10/18 ~ 11/5	19	播磨灘 ~ 紀伊水道	<i>Mesodinium rubrum</i>	無	1,880	
10	10/22	1	富岡港	<i>Heterosigma akashiwo</i> <i>Eutreptiella sp.</i>	無	29,500 1,100	
11	12/27 ~	14	内の海東部	<i>Akashiwo sanguinea</i>	無	181	翌年1/9まで継続